

20

物語 (6)

星野くんの二塁打

吉田甲子太郎

学習日
月 / 日

学習のめあて

○細部を読みこみ、全体の理解を深めましょう。

読んで考えよう

●Rクラブはきのう試合に勝ち、見事に選手権大会出場を決めました。しかし、監督の別府さんはみんなにお祝いの言葉をかけることができないのでした。

別府さんは、ひざの上に横たえたバットを、両手でゆっくりまわしていたが、それをとめて、静かにことばを続けた。

「ぼくが、監督に就任するときに、きみたちに話したことばを、みんなはおぼえてくれているだろうな。ぼくは、きみたちがぼくを監督としてむかえることに賛成なら、就任してもいい。町長からたのまれたというだけのことでは、いやだ。そうだったろう、喜多くん。」

喜多は、別府さんの顔をみて、強くうなずいた。

「そのとき、きみたちは、喜んで、ぼくをむかえてくれるといった。そこで、ぼくは、きみたちとそうだんして、チームの規則をきめたのだ。いったん、きめたいじょうは、それを守るのが当然だと思う。また、試合のときなどに、チームの作戦としてきめたことには、ぜったいに服従してもらわなければならぬ、という話もした。きみたちは、これにもこころよく賛成してくれた。それで、ぼくも気持ちよくきみたちと練習を続けてきたのだ。おかげで、ぼくらのチームも、かなり力がついてきたと思っている。だが、きのう、ぼくはおもしろくない経験をしたのだ。」

ここまで聞いたとき、「これは①自分のことかな。」と、星野はかるい疑問をいだいた。けれども、自分が、しかられるわけではないと、思いかえさないうではいられなかった。

——なるほど、ぼくは、きのう、バントを命じられたのに、かってに、打撃

15

10

5

① 線①「自分のこと」とありますが、

① 具体的には星野くんがしたのはどんなことですか。

② 星野くんのしたことは、チームにどんな結果をもたらしましたが。

② 線②「ぼくは、きのうの星野くんの二塁打が気に入らないのだ」とありますが、

① 「気に入らない」とほぼ同じ意味で用いられていることばを、本文中から書きぬきましょう。

② どうして監督は星野くんの二塁打が気に入らないのですか。その理由を説明しましょう。

に出た。それはチームの統制をやぶったことになるかもしれない。しかし、その結果、ぼくらのチームが勝利を得たのではないか……。

そのとき、別府さんは、ひざの上のバットをコツンと地面においた。そして、ななめ右まえにすわっている星野の顔を、正面から見た。

「まわりくどいいい方はよそう。」^② ぼくは、きのうの星野くんの二塁打がにるいだ気

にいらぬのだ。バントで岩田いわたくんを二塁へ送る。これがあるとき、チームできめた作戦だった。星野くんは**不服**らしかったが、とにかく、それをしようとしたのだ。いったん、しょうちしておきながら、かってに打撃に出た。小さくいえば、ぼくとのやくそくをやぶり、大きくいえば、チームの統制をみだしたことになる。」

「だけど、二塁打を打って、Rクラブをすくったんですから。」
と、岩田がたすけぶねを出した。

「いや、いくら結果がよかったからといって、統制をやぶったことに変わりはないのだ。……いいか、みんな、野球は、ただ、勝てばいいのじゃないんだよ。健康なからだをつくと同時に、団体競技として、協同の精神をやしなうためのものなのだ。ぎせいの精神のわからない人間は、**社会**へ出たって、^③ **社**会を益することはできない。」

別府さんの口調が熱してきて、そのほおが赤くなるにつれて、星野しんいち仁一の顔からは、血の気がひいていった。選手たちは、みんな、頭を深くたれてしまった。

「星野くんはいい投手だ。おしいと思う。しかし、だからといって、ぼくはチームの統制をみだした者を、そのままにしておくわけにはいかない。」

そこまで聞くと、思わず一同は顔をあげて、別府さんを見た。星野だけが、じつとうつむいたまま、石のように動かなかった。

40

35

30

25

20

□^③ 線③ 「社会を益する」とありますが、社会を益する人間とはどんな人間だと、別府さんは考えていますか。「**人間**。」という形で書きましょう。

□^④ 線④ 「顔からは、血の気がひいていった」、^⑤ 「じつとうつむいたまま、石のように動かなかった」とありますが、これは星野くんのどのような気持ちを表していますか。考えて書きましょう。

ことば

● おもしろくない

● 不服

● たすけぶね